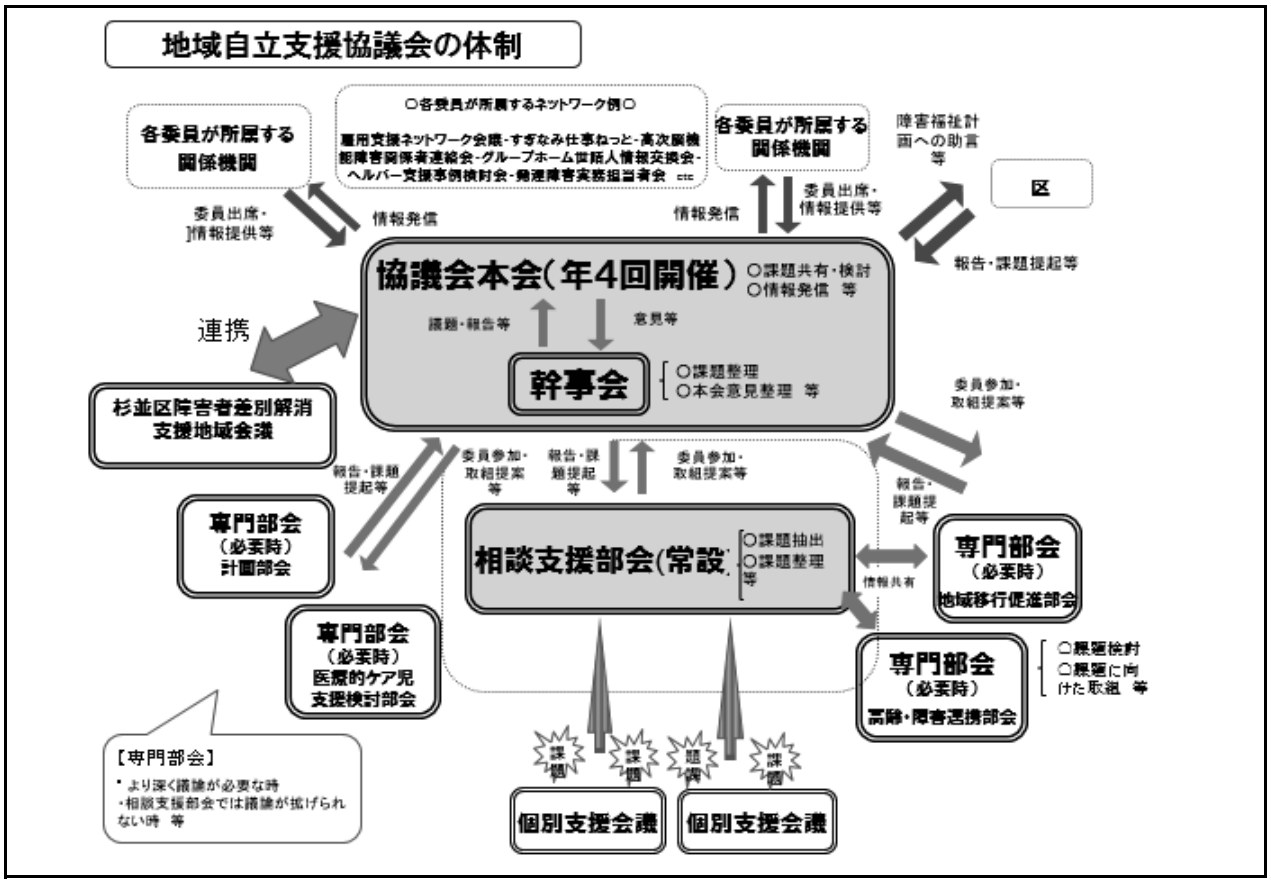
杉並区

１　地域自立支援協議会の基本事項

（１）名称　杉並区地域自立支援協議会

（２）ホームページＵＲＬ　https://www.city.suginami.tokyo.jp/normalife/shisetsu/shienho/1008812.html

（３）組織図



（４）会議実施方法等

ア　開催方法

全体会	集合形式	専門部会等	集合形式

イ　開催時間

全体会	平日日中（業務時間内）	専門部会等	平日日中（業務時間内）

２　地域自立支援協議会の委員

（１）委員名簿

No.	役職	氏　名	所属	種　別	備考	経験年数
1	会長	髙山　由美子	ルーテル学院大学	学識経験者		15年
2		奴田原　直裕	こもれびカウンセリングルーム	障害当事者（ピアサポーター含む）		5年
3		齋藤　聡	アーツアンドクラフツ株式会社	障害当事者（ピアサポーター含む）		1年
4		上田　久美子	すまいる高円寺	障害当事者（ピアサポーター含む）		1年
5		田邊　大樹	都立中野特別支援学校（高等部）	教育関係機関		3年
6		宮﨑　卓矢	都立永福学園肢体不自由教育（高等部）	教育関係機関		1年
7		西明　久恵	杉並区社会福祉協議会	社会福祉協議会		1年
8		氷見　真敏	杉並区障害者雇用支援事業団	雇用関係機関		3年

No.	役職	氏　名	所属	種　別	備考	経験年数
9		小林　哲	杉並育成園すだちの里すぎなみ	障害福祉サービス等事業者		1年
10		中元　直樹	精神障害者地域生活支援すぎなみ会議（グループホームネスト）	障害福祉サービス等事業者		5年
11		水谷　泰三	社会福祉法人いたるセンター（グループホーム）	障害福祉サービス等事業者		1年
12		相田　里香	杉並区ケアマネジャー協議会	その他	高齢分野	7年
13		関根　麻里絵	地域包括支援センターケア２４方南	その他	高齢分野	1年
14		継　仁	杉並区医師会	医療関係者		9年
15	副会長	野瀬　千亜紀	すまいる荻窪	相談支援事業者		3年
16		藤巻　鉄士	すまいる高円寺	相談支援事業者		1年
17		阿久津　庄司	すまいる高井戸	相談支援事業者		1年
18		修理　美加沙	やどり木	相談支援事業者		9年
19		早野　節子	相談支援事業所かすみ草	相談支援事業者		5年
20		佐藤　陽子	いたる相談室	相談支援事業者		1年
21		高橋　和哉	相談支援事業所うぃる	相談支援事業者		1年
22		鈴木　亮介	あおばケアセンター	相談支援事業者		1年
23		河津　利恵子	障害者団体連合会	家族・関係団体		1年
24		池部　典子	障害者団体連合会	家族・関係団体		3年
25		池部　弘子	非営利活動法人　ももの会	家族・関係団体		3年

（２）委員構成

全体会・部会名 / 種　別	全体会	相談支援部会	地域移行促進部会	高齢・障害連携部会	医療的ケア児支援検討部会
学識経験者	1				
医療関係者	1		3		5
保健所	0	1	1		
教育関係機関	2	1			2
雇用関係機関	1	1			
企業	0				
障害当事者（ピアサポーター含む）	3	3	1	2	
家族・関係団体	3				4
身体・知的障害者相談員	0				
相談支援事業者	8	9	4	3	1
障害福祉サービス等事業者	3		2		3
社会福祉協議会	1	1		2	
法曹関係者	0				
民生委員・児童委員	0				
地域住民	0				
行政職員(区市町村)	0	4	2	2	
行政職員(都)	0		1		
その他	2	1		6	2
計	25	21	14	15	17

全体会・部会名 / 種　別	計画部会
学識経験者	1
医療関係者	
保健所	
教育関係機関	1
雇用関係機関	1
企業	
障害当事者（ピアサポーター含む）	1
家族・関係団体	6
身体・知的障害者相談員	
相談支援事業者	2
障害福祉サービス等事業者	2
社会福祉協議会	
法曹関係者	
民生委員・児童委員	1
地域住民	
行政職員(区市町村)	
行政職員(都)	
その他	
計	15

3　地域自立支援協議会の活動状況

（1）地域自立支援協議会での協議事項（複数回答）

③ 地域移行・地域定着支援に関すること。

主に精神障害者の「居住と支援体制」をテーマに、委員へのアンケートやグループ討議、好事例の共有などを行い、役立つ情報のアクセス先をまとめたパンフレット案を作成した。今後は、情報の追加や媒体の工夫などについて検討を進めながら、情報収集や関係機関との連携をとおして支援体制の強化に取り組む予定。

④ 高齢者福祉サービスとの連携に関すること。

Ｈ３１年度に高齢・障害連携部会を設置。障害者分野と高齢者分野、および障害当事者を委員に、年３回程度の部会を開催している。Ｒ５年度は区内Ｂ型作業所職員を主とする「すぎなみ仕事ねっと」と合同セミナーを開催。Ｂ型利用者の高齢化と介護保険移行に向けての課題について話し合いを行った。

⑤ 医療と福祉の連携に関すること。

医療的ケア児支援検討部会では、医療的ケア児の施設での受入れ促進について、地域の医師会代表参加のもと検討を行いその結果を医療行政連絡会で報告した。

⑦ 関係機関や他分野のネットワークに関すること。

④に記載のとおり、高齢・障害連携部会を立ち上げ、高齢者支援・介護保険施策分野との連携を進めている。

⑧ 社会資源の開発及び改善に関すること。

⑩にもあるように地域生活支援拠点についての協議を進める中で、現在不足している資源やその開発について協議をしている。

⑨ 障害者差別解消法や条例、権利擁護に関すること。

本会の協議テーマとして前年度より虐待予防について協議し、各関係機関から「虐待防止につながる良い取り組み記録」の収集をしている。次年度はこれを成果物として編集、配布予定である。

⑩ 地域生活支援拠点等の整備に関すること。

本会の協議テーマとして取り扱い、その評価方法の検討や現状の報告、今後の拠点に求めるものなどのグループ討議を行った。

⑪ 障害福祉計画等に関すること。

計画部会を立ち上げ、検討および協議を行い、その内容については本会に共有しさらに協議を重ねた。

⑫ 地域自立支援協議会の運営に関すること。

協議会の運営方法として、各回必ずグループ討議を行うこととした。また東京都の協議会に参加、その内容を報告し、他自治体の取り組みを共有し、取り入れられる取り組みを検討した。

（２）地域自立支援協議会としての役割（複数回答）

① 情報の顕在化

国や都からの通知内容の詳細等を説明し、共有している。

② 情報共有・情報発信

様々な分野からそれぞれの情報を持ち寄り、発信・共有する場となっている。

③ 分野を越えてのネットワークの構築

協議会自体が様々な分野・基幹からの代表が集まっており、ネットワーク構築の起点となっている。

⑤ 地域課題の整理

地域生活支援拠点の評価・検証の際に、地域課題について協議している

⑥ 課題解決に向けての検討

⑤同様

⑦ 障害福祉計画等の進捗管理や調整

計画部会で検討された内容について、本会にて再度共有、協議している。

⑧ 社会資源の開発及び改善

⑤同様

⑩ 権利擁護・虐待防止

前年度より虐待防止を本会のテーマとして取り組んできた。また、シンポジウムでも当事者の地域生活について発信するうえで権利擁護は欠かせない根幹として意識して取り組んでいる。

⑪ 相談支援過程における評価（相談支援の質の評価、機関等及びそれらの連携に関する評価、施策に関する評価、政策作成に係る提言）

障害者地域相談支援センターの評価について、本会にて協議をしている。

（３）地域自立支援協議会として把握している地域課題

ア　個別の困難事例の把握・検討（複数回答）

⑤ 個別の困難事例を取り上げたことはない。

イ　地域課題が「あがっていない」又は「わからない」とした理由

現在までに複数の部会で個別の事例について協議したことはあるが、本会へは報告に留まっており、そこからさらに検討を進めるに至っていない。次年度、協議予定である。

ウ　地域課題に対して取り組んだ（取り組んでいる）内容又は取り組めなかった理由等（複数回答）

③ 権利擁護・虐待防止

虐待の起きない地域づくりを目指し、「虐待予防につながる良い取り組み記録」の収集を進めている。

④ 高齢福祉分野との連携

障害者分野と高齢者分野それぞれにおける各分野の知識不足が長年の課題である。高齢・障害連携部会を立ち上げ、年３回程度の部会を開催している。

⑥ 緊急・災害等対応

障害のある方にとっての災害時の課題を共有した。また区の防災課協力のもと、災害時における防災体制について確認を行った。

⑦ 医療的ケア

医療的ケア児の施設での受入れ促進について、地域の医師会代表参加のもと検討を行い、その結果を医療行政連絡会で報告した。

⑪ 地域移行・地域定着支援

精神障害者の退院後の居住についてが課題として挙がっており、今年度は「居住と支援体制」をテーマに協議を重ね、必要な情報のアクセス先をまとめたパンフレット案を作成した。今後は情報収集や関係機関との連携をとおして支援体制の強化に取り組む予定。

エ　地域課題の中で、広域又は東京都全域で対応するほうが良いと考える課題

② 社会資源の開発及び改善

社会資源の開発についてはどの自治体も課題であるが、一つの自治体だけでは限界がある。近隣区や圏域単位で協力して考えていく必要があると思う。

⑤ 福祉人材（マンパワー）の確保

予算面での支援が必要だと思う。

４　地域自立支援協議会の活性化

（１）地域自立支援協議会活動の評価

ア　全体会・専門部会等の評価

全体会	活性化した。	専門部会等	活性化した。

イ　活性化したと評価する理由

・グループ討議を取り入れた。特に本会では、ロの字型だった座席配置を、会の開始時からグループ席に変更し、各回テーマを決め必ずグループ討議をすることとした。
・専門部会も同様にグループ討議を多く実施していることに加え、地域の事業所や既存のネットワークとの共同開催を実施した。
・広く地域に向けたイベントであるシンポジウムを、旧来の年度末開催から障害者週間期間の開催とした。